航空ファン
THE KOKU-FAN
ワイドカラー
WIDE COLOUR
3式戦闘機
飛燕
☆特集☆
ルポ・日の丸ファントムの生産ライン
1970年代の日本航空界の課題と問題点
4ch・40用スケールR/C"機ミグ19改"
'72
FEBRUARY
2

名古屋航空ショーの展示機

AIRCRAFT EXHIBITION AT JAPAN INTERNATIONAL AEROSPACE SHOW 1971

（下）国産初の超音速ジェット機XT2　同じく国産のXL　とともに展示されて　サービス　飛行してみせた。

カラーで見る中華民国空軍機

〔上・下〕南部の基地に配備されているノースロップF-5A戦闘機。全機退役したF-86Fの後をついで、F-104とともに台湾の防空の任についている。上の機体は翼端にサイドワインダーAAMを装備。尾翼のマークは飛行隊ごとに色わけされている。

〔上・下〕F-5Aの胴体中央部。操縦席下の注意書きなどのこまかいディスクリプションがよくわかる。尾翼の部隊マークは前ページの赤、黄と二の3色。

台湾の岡山基地に展示されているF 84Gサンダージェット戦闘機　就役当時のままの塗装で　後方のF 86Fと一緒に並べられている。

〔上〕前ページと同じく南部基地のF-86F セイバー。同機はつい最近まで防空の任についていたが、現在では全機退役、F-5Aと交代している

〔下〕サンダージェット、セイバーと一緒に南部基地に展示されている地対地の有翼ミサイル、マーチン・マタドール。同ミサイルは1954年から実用化されており、中華民国空軍のほか西ドイツ空軍でも装備している

イギリスのヨービルトン海軍基地で撮影した各機。〔上〕シービクセンFAW 2 ヨービルトンに駐留して訓練のために機材を空母やほかの海軍部隊へ提供している第890スコードロンの所属機　写真の機体は機体番号が"782 VL"、シリアルはXJ609　なお　の部隊は現在　すべて民間人で構成されて　る。
〔下〕ガネットAEW 3。ロンイマウスに駐留している陸上部隊第849スコードロンの所属機で　機体番号は"762 LM"、シリアルはXP225

〔上〕アメリカのエアーレース界のヒーロー D グリーネマイアーが乗って飛んだムスタング。このレースでは3位。機首と尾翼のチェッカー、赤いレースナンバーのみ。すべて塗らないのもスピードを出す秘密（?）

(Photos by John D Hathaway)

〔下〕特別出演のスーパーコンステレーション"レッド バロン"落書きのようにマークや記号を付けて 500メートルほどの高度でコースをまわった。

（上、下）これも特別出演のDC-7B。ニックネームは「スーパースヌーピイ」。上は脚を出してピストーストップ向うところ。こんな大型機がレースに飛び入りするところなど、さすが本場である

局地戦闘機雷電21型　主翼に20mm機関砲4門をつけた雷電21型で横須賀航空隊の所属機　整備員が車輪止めをはずして離陸（スタート）するところ（おそらくテスト飛行のときのものであろう）　機体の塗装　上側面が暗緑色　下面が灰白色の当時の海軍機のスタンダード　ペインティング

エドモアロニー氏の航空博物館に展示されている雷電21型　同博物館で復元したもの。機体の塗装は台南航空隊の[illegible]中尉機のものになっている。現存するただ一つの雷電としてアメリカでも同好の志たちの人気を集めている

メッサーシュミット　Bf109E
MESSERSCHMITT Bf109E

第２次大戦中のドイツ単座戦闘機の総生産数のうち約60％にあたる30,500機以上の多くが生産されたBf109は、ドイツ空軍の主力戦闘機として各戦線で活躍。特にE型はその大量生産型であり、E型は大戦初期の花形としてドイツ軍快進撃のバックボーンとして、その威力を発揮した。

The Messerschmitt Bf 109 was the primary fighter of the German Air Force during World War II. More than 30,500, or roughly 60 percent of all single engine German fighters built during the war, were Bf 109s. The "E" model, the first mass-produced Bf 109, made it possible for the German Air Force to support the extraordinary German advances during the early stages of the war.

☆キット紹介☆

Bf109Eのキットはレベル1/72シリーズから発売されており、全幅13.6cm、全長12.3cmという手ごろな大きさのキットで、部品数は約28個。1/72スケールのBf109Eのうちでは決定版であると評する人もあるくらいで、各部もそつなく良いモールドであり、E型の特徴をうまく表現している傑作モデルである。

KIT

The Bf 109E is now on sale from Revell in the 1/72 series. The finished model is 13.6 cm wide and 12.3 cm long and is composed of 28 pieces. It is small but adequately expresses the characteristics of the "E" model through Revell's faultless molding technique. Many model fans proclaim this kit to be the ultimate Bf 109E reproduction in the 1/72 series.

塗装について

図１と２は、JG52の所属機で機体下面と尾翼はライトブルー20の地色で、胴体の上・側面はRLMグレー（オリーブドラブ14＋ニュートラルグレー13を白1でうすめたグレー）のまだら迷彩。機首の上部と方向舵は白、翼上面はダークグリーン17とブラックグリーン18のスプリンタータイプ迷彩である。

図３は、JG2の所属機で翼上面と胴体の背がダークグリーンとブラックグリーンの迷彩。胴体側面はライトブルー20の上にRLMグレーのまだらがあり下面はライトブルー20。機首と主翼翼端がクロームイエロー4にレッド少量混色。胴体のナンバーと記号は黒ぶちつきとなっている。

図４は、JG53の所属機で胴体側面はグレー75 37（またはRLMグレー）、下面はライトブルー20で、翼上面と胴体の背がダークグリーンのスプリンタータイプ迷彩。機体ナンバーは黒ふちがついている。

（K. Hashimoto）

PAINTING

Figs 1 & 2: The bottom of the fuselage is painted Revell Color 20 light blue and the top and sides of the fuselage are camouflaged with RLM gray (a mixture of RC 14 olive drab and RC 13 neutral gray lightened with RC 1 white). The nose and horizontal stabilizer are white, while the upper wing surfaces have a splinter camouflage of RC 17 dark green and RC 18 black green.

Fig 3: This plane belonged to the 9 JG2. The upper wing surfaces and fuselage are camouflaged with dark green and black green. The sides of the fuselage have RLM gray dots over RC 20 light blue, while the lower fuselage is RC 20 light blue. The nose and wing tips are a mixture of RC 4 chrome yellow and a small amount of red. The numbers and insignia on the fuselage are edged in black.

Fig 4: This plane belonged to the 1/JG53. The sides of the fuselage are RC 37 gray 75 (or RLM gray), while the bottom is RC 20 light blue. The upper surfaces of the wings and top of the fuselage are splinter camouflaged with dark green and black green. The aircraft numbers are edged in black.

(K. Hashimoto)

Bf109E データ（Bf109E technical data）

全幅（span）9.88m　全長（length）8.64m　全高（height）2.28m　全備重量（loaded weight）2,500kg　発動機（engine）ダイムラーベンツ DB601A（1,100HP）×1　最大速度（max. speed）570km/h　実用上昇限度（service ceiling）11,000m　航続距離（range）665km　武装（armament）20mm×2　7.9mm×2　乗員（crew）

Bf109Eの塗装に必要なレベルカラー	
1 ホワイト	3 レッド
4 イエロー	8 シルバー
14 オリーブドラブ	13 ニュートラルグレー
17 ダークグリーン	18 ブラックグリーン
20 ライトブルー	28 黒つや消し
37 グレー75	30 フラットベース

Bf109E 戦闘機　第27戦闘大隊第I中隊の所属機で，E型の 4 N Trop.。機体の塗装は上側面ゲルブ（ダークイエロー）の地色にドゥンケルグリューン（ダークグリーン）のインクスポット迷彩，下面はヘルブラウ（ライトブルー）胴体後部の帯は白，機首に描かれているのは第27戦闘大隊のエンブレムである。機首左側のラムエアインテイクにフィルターを装備しているのに注意

イスパノ エンジン装備のBf109

ロールアウトしたS-3A対潜機

アメリカ海軍で初めての純ジェットの艦上対潜機S-3A"バイキング"の1号機が去る2月8日カリフォルニア州バーバンクのロッキード工場でロールアウトした。本機はS-2トラッカーの後継機として開発されているもので、ロッキードでは4億6千400万ドルの契約で現在8機のテスト機を生産中。1号機は今春1月21日初飛行。就役は2年後の1974年から予定されており、海軍では最終的には191機発注の計画である

上，下：前ページと同じくロールアウトしたS-3Aの雄姿。搭載エンジンはGEのTF34ターボファン2基。最新のASW電子装置を積んで35,000フィート（10,668m）を

こと。

なお本機の開発計画には艦上機の経験豊富なヴォート（LTV）社も参加しており，主翼や尾部，エンジン・ナセル，降着装置などの製作を担当する。本格的な艦上機の試作は初め

新型レーダー装備のミラージュ5

ーコ ダイノー エレクトロニクス社で開発され，取りつけたもので，非常に小型である．写真は機首のレドームをはずしてアンテナなどを見せている

K-44II "SHOKI" AT OHTA NAVAL AIR STATION

れまで鮮明な写真が少なくてはっきりしなかった機首下面までよくわかる

102
生産ラインに見る
航空自衛隊の新しい翼
THE SECOND XT-2 PROTOTYPE NEARS FLIGHT TEST
三菱重工小牧工場訪問

29-5102

ファントムもぞくぞく完成

左と下はF 4EJファントムの組立ライン。8号機までの機体各部が運び込まれて　流れ作業で組立てが進められている。上はケーブル　テスト中の4号機　目もくらむような配線の数　これをつなぎあわせて不具合個所を探るのに2週間もかかる　下は向う側から順に3　4　5号機。

FIRST EIGHT F 4EJ FIGHTERS TO BE ASSEMBLED IN JAPAN UNDER LICENSE ARE ON THE LINE AT KOMAKI PLANT

MU-2の生

MU 2G & J SHOWN ON PRODUCTION LINE

スト飛行中のＸＴ 2

THE XT - INITIAL PROTOTYPE … UNDER THE TEST FLIGHT

米第５空軍の競点射撃大会

THE FIFTH AIR FORCE WEAPONS MEET.

(135ページ本文記事参照)

タワー付近。四国を山に
まれた美しい自然の景
進入の壮大な空中を
も絶好の場である。
のんびりと空を舞う。し
ればいうにおよばず、
飛行でも学生たちの神
はピンと張りつめている。
基地のタワーと格納庫の

⑦体育館と運動場。館内には談話室から茶室まであり、課外活動の設備もととのっている ⑧語学学習教室。パイロットには英語は大切な教科目のひとつ。

フォート ニュース

〔上〕このほどイギリスのBACフイルトンで完成したコンコルド01。これまでの試作2機（001と002）と違って，ドループ・ノーズを新しいものとし，胴体が延長され，エンジンも機翼も改良されて，実用機に非常に近くなっている。

〔下〕イギリスのマンチェスターからスーパー・グッピイでツールーズの最終組立工場へ運ばれるヨーロッパのエアバスA300Bの主翼。A300Bの1号機は今年の夏に完成，来年までに初飛行の予定。主翼の製作はホーカー・シドレーが担当している。

(上)昨年10月に行なわれたブレゲー941輸送機のデモのスナップ。アルプスの高地でも楽々と発着できる性能が実証されたという。写真の機体はフランス陸軍の所属で、カムフラージュ塗装をしている。

(下)地球の磁場地図作成のため、地磁気観測の任につくことになった米海軍のP-3オライオン。磁場地図は磁気コンパスを使って航行する艦船にとって重要な資料。そのためのデータ収集がこのP-3の新しい任務。磁気空中観測用の装備をして、今後20万キロも飛びまわることになるという。機首に描かれたマンガが面白い。

(上)ロールアウトまもないボーイング747Fジャンボ フレイター。ルフトハンザ航空に引渡される1号機 (下)C 119の翼下にJ85 GE 17ターボジェットを試験的に1基ずつ装備したのが、このYC 119K。本機を基にしてAC 119GとKのガンシップが造られたが、このYC 119Kの存在はこれまであまりよく知られていなかった。

3式戦闘機　飛燕

(Ki 61 1 Kai-hei)

ARMY TYPE 3 FIGHTER "HIEN"

(Ki-61 I otsu)

今月号はわが大戦戦闘機では唯一の液冷エンジン装備機　スマートな飛燕の特集。未公開の珍らしい写真を収録しました。

前ページとこのページは　明野陸軍飛行学校の3式戦1型。前ページは胴体の12.7mm機銃をホ5 20mm機関砲にかえた1型丙で　後方に写[illegible]のはキ45改屠龍。このページは胴体と主翼に12.7mm機銃4梃の1型乙である。

このページは2ページとも三式戦I型改丙で　静岡県の大井海軍基地に不時着したものという。おそらく基地が分られて、緊急着陸したものであろう。

未発表 陸軍機写真集

JAPANESE ARMY AIRCRAFT OF THE SECOND WORLD WAR.

垂直尾翼に虎のマークを描いて、中国、仏印方面の空を翔けまわった独立飛行第18中隊の100式司令部偵察機2型(K：46 II)。

(上)大井海軍基地の陸鍾たち。左の2機が2式単座戦闘機2型（Ki-44II）右は斜め銃を付けた屠龍丙 45改丙（Ki-45 Kai hei）で いずれも246戦隊の所属機である。右端の機はアンテナ柱を後方に移しているが これは部隊で改造したもの。

KI-44 PROTOTYPE

(左下・下)中島の太田工場で製作中のキ44試作第1号機。1号機は脚が内側に引込み、カウル・フラップ後方に整流調整用のフラップを付けるなど のちの鍾馗の生産型とは異っていた。昭和15年8月に完成している。

(上)みごとな編隊を組む2式単戦鍾馗2型甲、機首の太い異様な感じの鍾馗は　見た目通りの高速　日本で初めての本格的な重戦であった。
(下)1式戦隼3型。隼の3型では排気管を集合排気式から単排気式に改め　風防の形などもかえられている。写真の機体は胴体下に増槽を付け　翼側には爆弾を吊して離陸するところ。特攻に出撃した1機であろう。

(上)同じくF Mk Vb これも献納機の1機で部隊への配備をまえてテスト中 BANKAのニックネームがつけられている
(下)118ページと同じくUFのコードレターをつけた第601中隊のLF Mk Vb シシリー島の前線基地の飛行場 離陸するところ

〔下〕方向舵の羽布に大きな穴があいた98式直協（Ki 36）とその後方はドイツのビュッカー・ユングマンを国産化した4式基本練習機（Ki 86）。同機は木金混合羽布張りの大戦機としては珍らしい存在であったが　これも翼や胴体の羽布がはがれ骨があらわに出ている。右後方と左に　速部と温地の飛燕が2機映っている。

ソ連軍用機スナップ集

MILITARY AIRCAFT OF U.S.S.R.

近着の写真で見るソ連の軍… 上〕… …らしく、… の格納…